



「失敗じゃないのに!!」

賢明学院小学校 4年

高橋 薫乃

夏休みの作文の宿題は『失敗から学んだ事』。私は机の前で何を書こうか思いを巡らせていると、母の一言。

「児童会の選挙で落ちた事を書いたら?」

…失礼な母親だ。あれは失敗ではない。失敗だなんてかけらも思っていなかった。

私は児童会の総務に初めて立候補した。人気がある人やハキハキ喋れる人達ばかりで、これは厳しいかもしれないと薄々感じていた。私は四、六年全員の前で発表した事が無い。ましてや自分の気持ちを大勢の前で伝えるなんて想像すら出来なかった。だが担任の先生に背中を押され決心した。しかし落ちた時の事を考えると、怖くて何度も辞めようと思った。始めは、私なら出来る!大丈夫だ!と思うのだが直ぐに、失敗したらどうしよう!笑われたりしないかな!と不安が覆い被さる。すると父母が

「落ちたついでいいのよ。落ちてもその時に得るものは大きいんだからね。」

と励ましてくれ、日に日に自信が湧いてきた。

選挙演説の日。朝は不安でいっぱいだったが、実際ステージに立つと、恥ずかしがらずに発表する事が出来た。そしてちよっぴり、憧れのマララに近づけた気がした。

結果は、落選…。とても悔しかったけど得るものはあった。それは大勢の前で自分の気持ちを初めて伝えられた事。発表している時、心が清々しくて、雲一つない青空みたいに気持ち良かった。こんな気持ちは初めてだった。この経験は私を一回り大きくさせてくれた。それに思ってもみない出来事が起きた。知らない先輩が私の名前を見て

「うち、このこに入れたでー!」

と話していた。私の演説を聞いて一票を投じてくれたのだ。この票は私にとって特別な票だ。児童会には入れなかったが、私にとってこの選挙に失敗はない。

お母様、これは失敗じゃない。私にとっては大成功なんだからね!